

令和5年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立中里小中学校 教諭 大谷 香織

- 1 派遣期日 令和5年 11月17日(金) ～ 11月17日(金)
- 2 派遣先 学校名(会場名) 愛知県学校試験会区教育研究大会
(Teamsによるオンラインライブ配信)
所在地 〒470-0344 住所 愛知県豊田市保見町西古城9番地1
<http://naishikyo.jp/>
- 3 研修内容

(1) 研究テーマ

「主体的に学び、明るい未来を切り拓くことができる子どもの育成
ー ICTを活用して新たな可能性を引き出す授業・業務改善ー

(2) 研究発表①「ICTを活用した協働的な学びの推進について」

愛知県豊田市では「豊田市学校教育の情報化プラン(2021～2025)」をもとに、市内の公立学校全体を通して児童生徒、教職員の情報活用能力の向上を目指して取組を行っている。特に、教員が授業内でICTを活用するために、機器操作や授業内での活用方法能力を向上させる研修を行い、より質の高いICTを活用した授業を行えるようにしていた。

**指導の個別化と学習の個性化による
個別最適な学び**



- ・粘り強く、試行錯誤する
- ・検索サイトを活用し、情報を収集・整理する。
- ・集めた情報の真偽を確認・判断する。

振り返って次につなげる

- ・一人ひとりの成果を保存し、学習履歴を活用した振り返りを行う。
- ・学習活動を動画で記録し、丁寧に分析する。

個に応じた課題に取り組む

- ・同時に一人ひとりが別々の内容を学習する。
- ・学習用アプリを活用し、一人ひとりの学習状況に応じたドリル学習を行う。

※指導の個別化とは、子どもたち一人ひとりの特性や学習進度、学習到達度に応じて教員が指導方法を柔軟に設定することである。
※学習の個性化とは、子どもたち一人ひとりが課題を設定し、自ら探究したり振り返ったりして、主体的に学習を進めていくことである。

**仲間と共に課題を解決する
協働的な学び**



- ・互いの考えを比べる・つなげる
- ・学習支援ソフト(SKYMENU Cloud)を用いて、互いに助言し合う。
- ・各自が収集したデータを持ち寄り、読み取る。

多様な手段で相手に伝える

- ・プレゼンテーションソフトを活用し、わかりやすく自分の考えを発表する。
- ・写真や動画を挿入し、幅広い方法で表現する。

学び合い、共に磨き上げる

- ・問いを立て、リアルタイムで考えを共有しながら学び合う。

※協働的な学びとは、集団の中で児童生徒一人ひとりのよい点を生かしたり、可能性を引き出したりするという視点を大切にし、多様な他者と協働して実社会に関わるような課題を解決しようとする探究的、体験的な学びである。

【目指す学習スタイル】
出典：豊田市学校教育の情報化プラン(2021～2025)
(<https://www.city.toyota.aichi.jp/shisei/gyoseikeikaku/ikusei/1042591.html>)

主な研修として、令和3年度には、SkyMenu CloudやPower Point等の操作方法を学ぶ研修を行い、令和4年度には、それらを意図をもって授業内に取り入れる方法について研修を行った。そして今年度にはICTを効果的に使い、目標を達成できる授業の工夫について研修を行い、ICTを活用した新しい授業スタイルに市内全体で取り組んだ。段階的に研修を行っていくことで、市内全体の教員のスキルアップが可能となり、ICTの活用率の向上に繋がっていた。また、ICTを活用した新しいスタイルの授業改善を行うための支援として、公務支援システムやMicrosoft Teams、豊田市教育センターHP等を通して、解説動画や実践事例などの共有を行い、教員同士がどのように授業改善を進めていけばよいのか考えるための情報を提供していた。

ア 協働的な学びを実現する授業実践例

① 社会

SkyMenu上の発表ノートの機能を使い、工業製品のイラストをグループに分けた。個人の考えをカードにまとめた後、グループワークを行い、班の仲間と意見交流を行う。意見の比較検討を行うことで、自分の考えを深めることができた。

② 理科

Microsoft Teamsを活用し、他校と連携しながら理科の実験を行った。大型提示装置でお互いの教室の様子を映し出しながら、予想の共有し、ホワイトボード機能を使って板書した。より多くの相手と意見を交流させることで、自分たちの予想を深めることができた。

(3) 研究発表②「プログラミング教育の推進について」

昨今のデジタル化社会のニーズに合わせ、豊田市ではプログラミング教育にも力を入れている。しかしながら、児童生徒だけでなく、教員にとってもプログラミング学習は身近なものではなかったという課題があり、市全体をとおして教員向けの研修を行った。プログラミングソフト「Scratch」の使用方法やプログラミングの基本的な処理についての研修を行うだけでなく、Microsoft Streamを通して研修動画や資料を共有することで、教員が授業等で活用できる支援を行った。

また、児童生徒に対しては、市独自に「プログラミング教育で育成したい能力」を設定し、各教科の授業内で取り入れていくことで、総合的な能力の向上を図っていた。実践例として、小学校第5学年算数「プログラミングの条件分岐を利用し、公倍数を見つける条件を考える授業」が紹介された。教員が「Scratch」で組んだ基本的なコードをSkyMenu経由で児童に配布し、児童はそのプログラムを使って試行錯誤を繰り返しながら公倍数の求め方について考えることができた。この授業を行うことで、プログラミングの仕組みを学ぶことはもちろんだが、算数の目標である「公倍数の求め方を理解する」という面でも児童の学びが深まっていた。

4 感想

愛知県学校試聴会区教育研究大会に参加し、最も感心したことは市全体で全教員のICT活用能力の向上に力を入れているということだった。ICTの活用は今後の学校教育にとって非常に重要なものである。教員側の機器操作能力やICTソフトへの理解度によって、活用の機会に大きな差が出てしまっていると感じた。そのとき豊田市全体でこのように研修や授業公開を行っている姿勢にとっても感動した。ICTの活用が教員にとって身近なものになれば、児童生徒がICT機器を1つの文房具として授業内で活用することができる環境に近づけるのだということが、今回の発表を通して分かった。

しかしながら、豊田市内でもプログラミング教育の実施についてはまだまだ課題が残ることだった。小学校ではICTを活用したプログラミング教育の意識が高まっている一方で、中学校では学習者用タブレットを活用したプログラミング教育をしたことがない教員が95%を超えるという結果であった。プログラミング教育については、特定の教科でのみICTを活用した授業が行われていることが多く、授業の目標を達成するために、機器やソフトをどのように活用していくのか、という方法については教員各個人の技量に任されているところが大きい。私自身、これからも情報収集や研修を重ね、ICTを活用したプログラミング教育についての学びを深めていきたい。

今回の研修を通して「ただICTを使うのではなく、場面や目的に合わせた活用をしていくことが、子供たちのよりよい学びにつながる」ということを再認識した。ICT機器を使うことが目的ではない、ということは本校でも常々言われていることであるが、豊田市が行っているアナログとデジタルを組み合わせながら「個別最適な学び」と「協働的な学び」がスパイラル的に行われる学習スタイルを知り、改めてICTを活用した授業の役割について考えるよい機会となった。今回学んだことを生かし、ICTを活用した効果的な学びのできる授業改善を行っていきたい。